

**[成果情報名]** カンキツ園における土着天敵の保全によるミカンサビダニの防除体系

**[要約]** カンキツ園には土着天敵であるカブリダニが発生する。カブリダニの増殖に好適な植物の植栽による「天敵の強化」と、カブリダニに影響の少ない薬剤の利用による「天敵の保護」を組み合わせることでミカンサビダニを防除可能である。

**[キーワード]** 土着天敵、防除、カブリダニ、ミカンサビダニ

**[担当]** 静岡農林技研・果樹研セ・果樹環境適応技術科

**[連絡先]** 電話 054-376-6154、電子メール kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

**[区分]** 果樹

**[分類]** 技術・普及

---

**[背景・ねらい]**

近年、静岡県ではミカンサビダニに対する防除薬剤で殺虫効果の低下が確認され、本害虫による被害が増加傾向にある。カンキツ園に発生する土着天敵としてカブリダニが知られているが、ミカンサビダニの捕食能力や密度抑制機能は十分に活用されていない。そこで、植物を利用して土着天敵を強化する技術と土着天敵に影響の少ない農薬散布を組み合わせることで、本害虫を管理する技術を開発する。

**[成果の内容・特徴]**

- 1 カブリダニによってミカンサビダニが捕食される（図1）。
- 2 カブリダニの増殖にとってクロマツ、イスノキ、ヤマモモ、チャの花粉が有効である。
- 3 上記の樹種のうち、クロマツ花粉は、樹から50m離れたカンキツ園にも十分量が飛散する（図2）。
- 4 カブリダニの増殖時期である4月～6月は影響の少ない薬剤を選択して散布し（表1）、7月以降は慣行防除を行う。
- 5 花粉源となる植物の植栽による「天敵の強化」と、天敵に影響の少ない薬剤の利用による「天敵の保護」を組み合わせることでミカンサビダニを防除可能である（図3）。

**[成果の活用面・留意点]**

- 1 カブリダニの増殖に好適な樹種のうち、クロマツ樹は約1樹/haの密度で植栽する。
- 2 7月～9月にミカンサビダニの被害果が確認された場合は、適宜ミカンサビダニに適用のある薬剤を散布する。

[具体的データ]



図1 カブリダニによるミカンサビダニの捕食

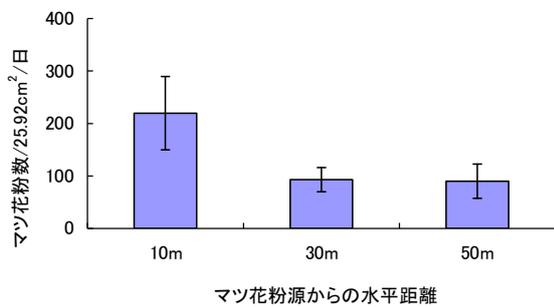


図2 花粉の飛散距離

表1 カブリダニに対する農薬の影響評価

系統	農薬名	判定*	
		生存	産卵
有機リン系	DMTP乳剤	×	×
合成ピレスロイド系	フェンプロパトリン乳剤	△	×
ネオニコチノイド系	イミダクロプリド水和剤	◎	×
その他	クロルフェナピル水和剤	◎	◎
殺菌剤	クレゾキシムメチル水和剤	◎	◎
	ピリベンカルブ水和剤	◎	◎
	イミベンコナゾール水和剤	◎	◎
	水酸化第二銅水和剤	◎	◎
	マンゼブ水和剤	○	×
	ジチアノン水和剤	◎	◎
無処理	-	-	-

※◎：影響なし、○影響少、△影響あり、×影響大

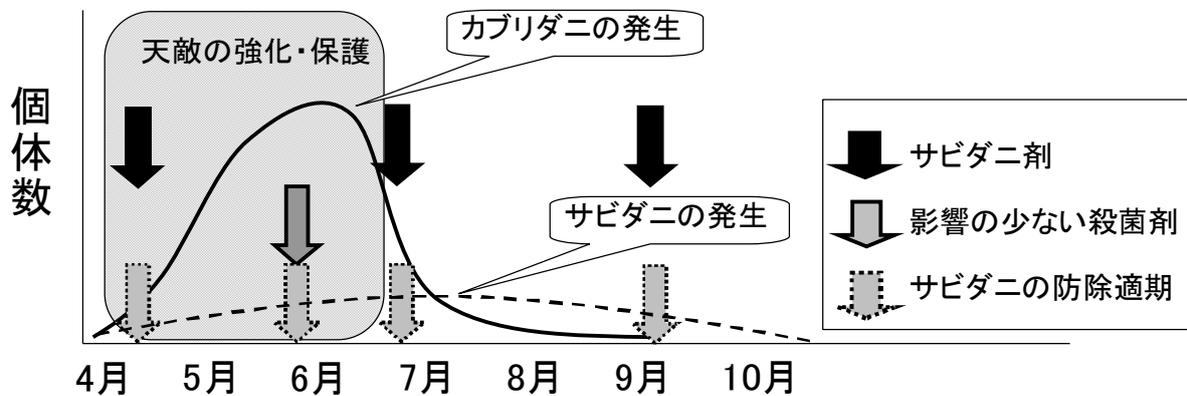


図3 カブリダニの強化・保護によるミカンサビダニ防除体系

[その他]

研究課題名：カンキツ園における生物多様性の機能を活用した害虫管理技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2015～2017年度

研究担当者：土田祐大、増井伸一、片山晴喜

発表論文等：土田・増井（2017）応動昆 61：23